

## 編集後記

本号のような記念論文集をフランス語で「メランジュ」《Mélanges》という。原義は、混合、まぜあわせたもの。この言葉にたがわず、法学部内の部門を越えた、さまざまな分野の論考がここに集まって、まさに百花繚乱の趣、何とよろこばしいことだろう。

朝吹亮二さんが数々の重責を担って法学部に格別の貢献を果たされたこと、それは繰り返すまでもないだろう。それにもまして、この後記の筆者を含む多くの後輩たちにとって、朝吹さんは何よりもまず、すばらしい詩人でありつづけたのである。そのような素振りを朝吹さんは少しも見せなかったけれど。

さらに永遠の少年、と言ったら語弊があるかもしれないが、朝吹さんには、いついかなるときも徹底して合理的でありながら、それでいてしなやかな、若木がどこまでも<sup>たわ</sup>撓むような、何とも柔軟な精神のはたらきがある。そんな朝吹さんの言葉や振舞いに、ひそかに救われたり励まされたりした人は少なくないのではないか。

朝吹さん、わたしたちの万感の思いの<sup>しるし</sup>徴としてこの一冊を贈ります。これからもどうか気軽にお声がけくださいますように。

H. K.